

コドモ発射プロジェクト なむはむだはむ



子供の発想に触発された大人の冒険が始まる

岩井秀人と森山未来が進める「コドモ発射プロジェクト」に、人気ミュージシャンの前野健太が参戦。
子供から飛び出した物語の種が次々と大人達を刺激する。

生きている言葉に打ちのめされました

「子供が自由に書いた物語を、表現のプロの大人たちがあの手この手で舞台にしたらおもしろい」というアイデアを出した野田秀樹。「それ、野田さんがやらないのなら僕がやります」と手を挙げた岩井秀人。岩井に誘われて「日本にももっと子供に開かれた舞台やダンスがあったほうがいい」と参加を決めた森山未来。そこに加わったのは、孤高の詩と心を引っかくメロディを生み出すシンガーソングライター、前野健太。声をかけたのは森山だという。

森山 前から岩井さんと、もうひとりいたらいいね、という話はしていたんです。ただ、僕が身体担当で岩井さんが言葉担当だから、じゃあ音楽の人がいい、という流れではなくて、そういうジャンルの垣根みたいなものを気にせず、自由に話ができる人がいいなと考えていました。

とはいえ、コドモ発射プロジェクトは通常の舞台とは違うので説明しづらく、また、岩井と前野に面識がなかったため、とりあえず、子供が物語を書くワークショップの見学に来てもらった。

前野 どれもすごかったですよ。「毛は木をふねにした」なんて、僕がいくら(頭で)こねくり回りしても出てこないものが、いきなりポンッと出てくる。そのまますごい詩情です。言葉が生きているから、メロディが付けやすいし、すぐに曲になる。こんな書かれたら、こっちはほとんどやることがないというか、興奮したし、打ちのめされました。

その反応に、岩井は救われたという。

岩井 やっぱ(劇作家という)職業柄、僕は文章を全体で見る癖がある。自分で気付かないうちに強迫観念みたいなものが生まれていて、子供達の書いたものも、どうすれば演劇として成立するかを考えていたと思うんです。でも前野さんは歌詞を書く人で、歌詞は短いセンテンスの積み重ねだから、短い言葉ひとつひとつに反応してくれたんです。「岩井さん、なんすか、これ!? すごいですよ!」と。僕の固まっていたところを、パカーンと砕いてくれました。

この視点が加わったことで、プロジェクトは大きく前進した。

森山 タイトルの『なむはむだはむ』は、ある子供が書いた物語の中にあっただ言葉なんですけど、これを発見してくれたのもマエケンさんです。話の前後から察すると、その子は「南無阿彌陀仏」と書きたかったのが、思い出せずにこうなった(笑)。

前野 ワークショップで書かれた物語のファイルを見せてもらったんですね。あれは、僕にとっては歌の宝庫ですよ。

森山 マエケンさんは、すごいミュージシャンだけど最近映画に主演したりと、どこか曖昧なところがある。と同時に、存在がポップなんです。わかりやすいという意味でのポップではなく、いるだけで伝わってくるものがある。マエケンさんに声をかけたのは完全に勘ですけど(笑)、来てもらってよかったです。

前述のように映画での演技経験はあるが、前野にとってはこれが初めての舞台出演となる。

前野 森山さんには、僕、ギターを持っていないと何もできませんよと言ったんですが、どんな形での出演になるかまだわからないので、今はちょっと不安です。

とはいえ、約2週間の合宿を挟み、稽古は丁寧に行なわれる予定だ。

岩井 子供が書いた台本は成立させますけど、そうじゃないことを探すためにもこの企画はあると僕は思っていて。例えば今、音響担当が、自分がブルミたいなところに入って音を出すのはどうかと言ってきたり、いろいろなアイデアが出ている。そういうものも極力、活かしたいんです。

子供達の自由なひらめきに触発された大人達の奮闘、目で耳で確かめる日が待ちきれない。

取材・文:徳永京子

2月18日(土)~3月12日(日) シアターウエスト 詳細はP12・13へ

原案:こどもたち つくってでる人:岩井秀人/森山未来/前野健太
そもそもこんな企画どうだろうと思った人:野田秀樹

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

「不信~彼女が嘘をつく理由」

3月7日(火)~4月30日(日)※プレビュー公演 3月4日(土)~6日(月) シアターイースト

詳細はP13へ



作・演出:三谷幸喜 出演:段田安則/優香/栗原英雄/戸田恵子

チケット発売:1月14日(土)

新鮮な顔合わせで贈るサスペンフルな悲喜劇

舞台・映画・TVドラマとジャンルを問わない活躍で、いまや日本を代表する喜劇作家となった三谷幸喜。つねに“笑い”を武器にしつつも、人間の裏側を描いたドラマや時代にひそむ恐怖を描いた戯曲でも評価は高い。本作は、そんな三谷が久しぶりに書き下ろすサスペンスだ。

世代の異なる男女が、うっかりと狂言・虚言を口にしたことで、意外な結末を迎えるという悲喜劇。キャストはたったの4人で、“三谷組”からは『国民の映画』などで見せる独特の存在感が印象的な段田安則、彼女が演じることでその人物がいつそう輝く戸田恵子。対する新たな顔ぶれは、三谷の『酒と涙とジگرとハイド』で初舞台にしてヒロインを演じ、コメディエンヌとしての才能を見いだされた優香と、大河ドラマ『真田丸』で真田昌幸の弟・信尹を静謐なたたずまいで演じて注目を集めた栗原英雄だ。シアターイーストの密な空間で、かれらがどんな表情を見せてくれるのか期待が高まる。

さて、これまで喜劇作家を自認してきた三谷だが、大河ドラマ『真田丸』の執筆を経て、立ち位置は変わらずとも、心情には若干の変化がおとずれたと聞く。さらに深化する三谷の舞台。その本番が、今から楽しみだ。

文:佐藤さくら(ライター)

「ハムレット」

4月9日(日)~28日(金)※プレビュー公演 4月7日(金)・8日(土) プレイハウス

詳細はHPへ



世界的名匠が豪華精鋭キャストと挑むシェイクスピア劇

チラシを見せるとみんな異口同音に「すごい!」と言う。居並ぶ役者名を見てびっくりする。綺羅星の如くとはこのことだ。ジョン・ケアード演出、内野聖陽主演の『ハムレット』である。

15歳の時にジョンさんは、2歳下の弟さんと一緒に毎朝5時起床、シェイクスピア劇を1日1本37日連続で音読するという快挙を成し遂げた。12歳の時には通っていた男子校で『オセロ』のデズデモナを演じたという。ジョンさんのシェイクスピアおたくは筋金入りなのだ。私は『夏の夜の夢』『十二夜』に続き、この『ハムレット』にも翻訳者として参加、また彼の深く鋭い読みによって度々目を開かれると思うとワクワクする。しかも今回はキャスト数がわずか14名。名前のある登場人物や、墓掘りのように無名でも重要な人物を合わせると30名近いのに。つまりダブル、トリプルの配役が予想されるわけで、スリリングこのうえない。ところで『レ・ミゼラブル』のオリジナル演出でも有名なジョンさんのミュージカルやオペラの演出家としての手腕は折り紙付き。戯曲を洞察する知力に加え、視覚と聴覚に訴える表現力の持ち主でもあるということだ。さあ、どんな『ハムレット』が立ち現れるか!

文:松岡和子(翻訳家・演劇評論家)

作:ウィリアム・シェイクスピア 訳:松岡和子 演出:ジョン・ケアード 音楽・演奏:藤原道山

出演:内野聖陽/貫地谷しほり/北村有起哉/加藤和樹
山口馬木也/今拓哉/大重わたる・村岡哲至・内堀律子・深尾由真
壤晴彦/村井國夫/浅野ゆう子/國村隼

チケット発売:1月14日(土)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇dance ローザス「ファーズ-Fase」/ローザス&イクトゥス「時の渦-Vortex Temporum」

「ファーズ」5月2日(火)・3日(水・祝) / 「時の渦」5月5日(金・祝)・6日(土)・7日(日) プレイハウス

詳細はHPへ

待望の再来日。新旧2作品、連続上演



ローザス
「ファーズ-Fase」
振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
出演:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
ほか
音楽:スティーヴ・ライヒ(録音)



ローザス&イクトゥス
「時の渦-Vortex Temporum」日本初演
振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル
出演:ローザス・ダンサーズ
音楽:ジェラルド・グリゼイ「時の渦」(Vortex Temporum)
演奏:アンサンブル・イクトゥス(生演奏)

※両作品とも愛知公演あり。チケット発売:2月11日(土・祝)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)